

平成22年度

決算の概要

姫路市

目 次

1. 一般会計	1
ア 対前年度比較(総括)	1
イ 構成比	2
ウ 対予算比較(款別)	3
2. 特別会計	5
3. 企業会計	7
4. 基金・地方債	8
5. 財政健全化指標	10
6. 普通会計財政分析表	11

1 一般会計

姫路市の平成22年度決算は、一般会計の歳入が2,246億939万円、歳出が2,162億8,969万1千円で、形式収支は83億1,969万9千円、ここから翌年度への繰越財源22億7,875万円を差し引いた実質収支は60億4,094万9千円となり、昭和43年度以来43年連続の黒字となりました。

(単位 千円)

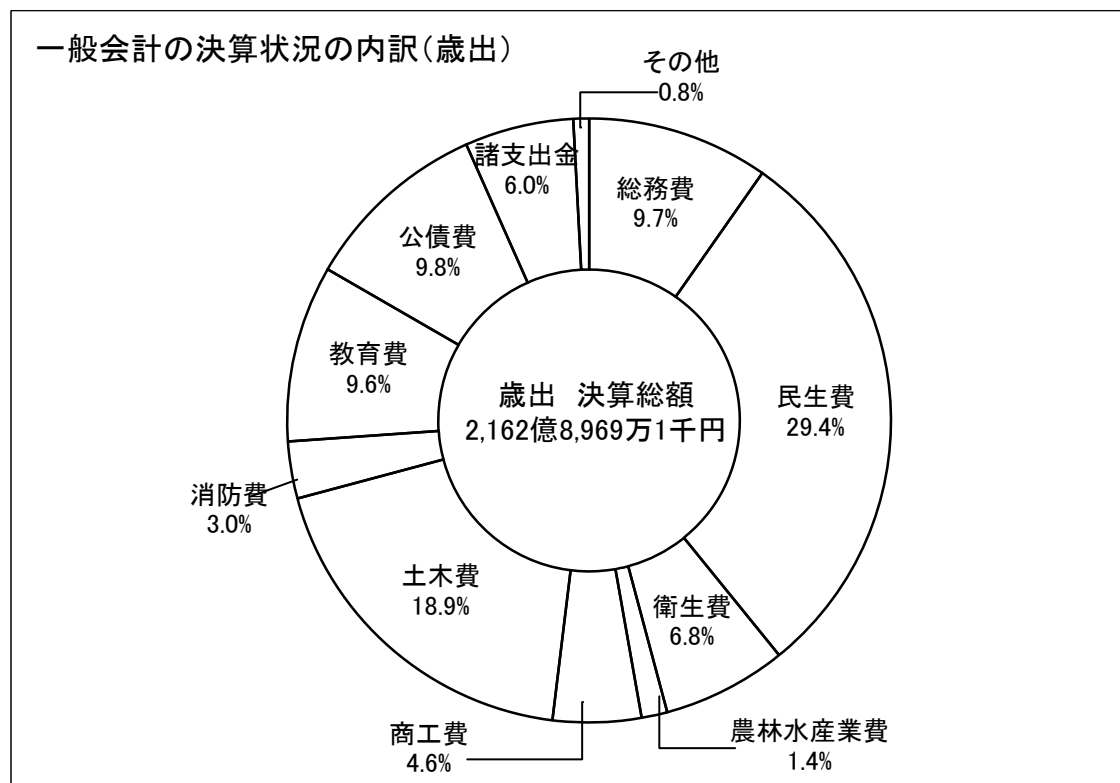
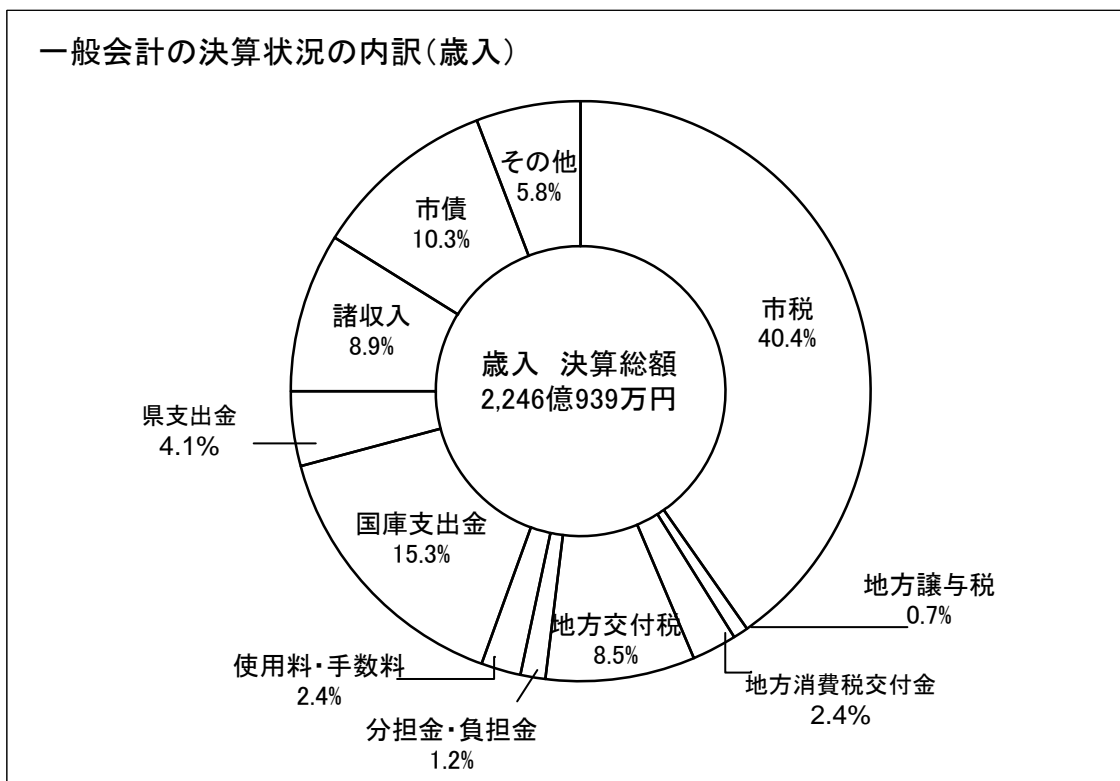
区分	歳入決算額	歳出決算額	形式収支	繰越財源	実質収支
一般会計	224,609,390	216,289,691	8,319,699	2,278,750	6,040,949

ア 対前年度比較 (総括)

(単位 百万円、%)

事項	22		21		比較	
	決算額	執行率	決算額 F	執行率	金額 G	増減率 G/F
歳入 A	224,609	94.8	219,565	92.3	5,044	2.3
歳出 B	216,290	91.3	210,295	88.4	5,995	2.9
形式収支(A-B) C	8,319	/	9,270	/	△ 951	△ 10.3
繰越財源 D	2,279	/	3,613	/	△ 1,334	△ 36.9
実質収支(C-D) E	6,040	/	5,657	/	383	6.8
翌年度への繰越額	6,424	94.0	12,972	93.9	△ 6,548	△ 50.5

イ 構成比



ウ 対予算比較（款別）

（歳入）

（単位 千円、％）

款名	予算現額	調定額	決算額	不納欠損額	収入未済額	執行率
市税	89,000,000	96,898,253	90,635,316	242,648	6,020,289	101.8
地方譲与税	1,500,000	1,555,491	1,555,491			103.7
利子割交付金	270,000	299,342	299,342			110.9
配当割交付金	65,000	192,592	192,592			296.3
株式等譲渡所得割交付金	60,000	64,200	64,200			107.0
地方消費税交付金	5,100,000	5,331,282	5,331,282			104.5
ゴルフ場利用税交付金	90,000	88,833	88,833			98.7
自動車取得税交付金	490,000	479,334	479,334			97.8
国有提供施設等 所在市助成交付金	7,386	7,430	7,430			100.6
地方特例交付金	1,053,000	1,081,092	1,081,092			102.7
地方交付税	18,863,814	19,186,665	19,186,665			101.7
交通安全対策特別交付金	127,000	122,367	122,367			96.4
分担金及び負担金	3,267,764	2,872,170	2,793,424	1,618	77,128	85.5
使用料及び手数料	5,678,667	5,419,859	5,278,618	582	140,659	93.0
国庫支出金	37,995,803	36,146,423	34,385,574		1,760,849	90.5
県支出金	10,094,614	9,146,974	9,109,517		37,457	90.2
財産収入	1,419,904	979,272	977,961		1,311	68.9
寄附金	118,385	268,358	268,358			226.7
繰入金	557,281	231,055	231,055			41.5
繰越金	7,970,052	9,270,052	9,270,052			116.3
諸収入	20,345,730	20,718,084	20,007,487	10,351	700,246	98.3
市債	32,864,300	23,243,400	23,243,400			70.7
合計	236,938,700	233,602,528	224,609,390	255,199	8,737,939	94.8

(歳出)

(単位 千円、%)

款名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	現年度執行率	繰越を含めた執行率
議会費	1,021,704	983,839		37,865	96.3	96.3
総務費	22,930,436	20,961,389	503,942	1,465,105	91.4	93.6
民生費	66,916,072	63,712,157	250,976	2,952,939	95.2	95.6
衛生費	16,839,755	14,804,513	813,500	1,221,742	87.9	92.7
労働費	708,739	666,158		42,581	94.0	94.0
農林水産業費	3,933,005	3,071,384	407,534	454,087	78.1	88.5
商工費	10,237,813	9,905,022		332,791	96.7	96.7
土木費	47,952,837	40,922,865	2,823,517	4,206,455	85.3	91.2
消防費	6,706,236	6,507,961	3,000	195,275	97.0	97.1
教育費	24,085,961	20,678,938	1,621,200	1,785,823	85.9	92.6
災害復旧費	22,153	15,247		6,906	68.8	68.8
公債費	22,281,912	21,152,682		1,129,230	94.9	94.9
諸支出金	13,212,382	12,907,536		304,846	97.7	97.7
予備費	89,695			89,695		
合計	236,938,700	216,289,691	6,423,669	14,225,340	91.3	94.0

2 特別会計

平成22年度特別会計の決算について、14特別会計合計では、歳入が1,240億3,485万円、歳出が1,179億117万8千円で、形式収支及び実質収支は61億3,367万2千円の黒字となりました。

会計別では、集落排水事業特別会計及び駐車場事業特別会計で赤字決算となっています。

なお、老人保健医療事業特別会計は制度の廃止により、土地取得特別会計は土地開発基金による公共用地先行取得に改めたことから、それぞれ平成22年度限りで会計を廃止しています。

また、下水道事業特別会計及び水洗便所普及奨励事業特別会計は、平成23年度から企業化して企業会計のコミュニティ・プラント事業と統合したため、平成22年度は打ち切り決算となっています。

(単位 千円)

会計名		歳入決算額	歳出決算額	形式収支	繰越 財源	実質収支	不納 欠損額	収入未済額	一般会計 繰入金
中央卸売市場事業		966,492	828,584	137,908		137,908		4,154	317,853
下水道事業		24,294,919	24,294,919	0		0	18,373	1,394,090	12,796,013
水洗便所普及奨励事業		23,159	15,073	8,086		8,086		8,522	1,178
集落排水事業		688,405	691,559	△ 3,154		△ 3,154		5,307	460,647
食肉センター事業		157,425	134,253	23,172		23,172			87,954
母子・寡婦福祉資金貸付		106,487	63,343	43,144		43,144		42,636	7,518
国民健康	事業勘定	57,126,524	52,261,550	4,864,974		4,864,974	677,920	2,116,505	3,496,940
保険事業	直営診療施設勘定	342,078	238,160	103,918		103,918			
介護保険事業		32,304,602	30,570,475	1,734,127		1,734,127	111,867	256,215	4,230,920
老人保健医療事業		5,995	5,995	0		0			521
後期高齢者医療事業		4,896,775	4,782,388	114,387		114,387	5,232	42,570	941,346
奨学学術振興事業		23,781	23,781	0		0			
財政健全化調整		67,487	67,400	87		87			
駐車場事業		377,894	1,270,871	△ 892,977		△ 892,977			240,681
土地取得		2,652,827	2,652,827	0		0			2,245,506
合 計		124,034,850	117,901,178	6,133,672		6,133,672	813,392	3,869,999	24,827,077

対前年度比較（総括）

（単位 百万円、％）

事項	22		21		比較	
	決算額	執行率	決算額 F	執行率	金額 G	増減率 G/F
歳入 A	124,035	99.7	121,663	97.1	2,372	1.9
歳出 B	117,902	94.8	114,575	91.5	3,327	2.9
形式収支(A-B) C	6,133	/	7,088	/	△ 955	△ 13.5
繰越財源 D			35		△ 35	皆減
実質収支(C-D) E	6,133		7,053		△ 920	△ 13.0
翌年度への繰越額		94.8	1,077	92.3	△ 1,077	皆減
実質収支の赤字会計 (億円)	集落排水	△ 0.1	集落排水	△ 0.1		
	駐車場	△ 8.9	老人保健	△ 0.1		
			駐車場	△ 9.6		

3 企業会計

平成22年度企業会計決算では、水道事業及び都市開発整備事業が赤字となりました。

(1) 水道事業

(単位 千円)

区 分	収益的収支			資本的収支		
	収 入	支 出	収 支	収 入	支 出	過不足
予算額(A)	9,983,887	10,145,467	△ 161,580	1,653,434	4,310,588	△ 2,657,154
決算額(B)	9,608,543	9,724,565	△ 116,022	1,192,587	4,081,263	△ 2,888,676
	(9,158,904)	(9,378,689)	(△219,785)	(1,179,901)	(3,964,814)	(△2,784,913)
(A)-(B)	375,344	420,902	△ 45,558	460,847	229,325	231,522

(注) 決算額(B)欄の()内は、消費税及び地方消費税を除く額

(2) 都市開発整備事業

(単位 千円)

区 分	収益的収支			資本的収支		
	収 入	支 出	収 支	収 入	支 出	過不足
予算額(A)	1,236,952	1,234,176	2,776		649,053	△ 649,053
決算額(B)	553,293	569,222	△ 15,929		440,631	△ 440,631
(A)-(B)	683,659	664,954	18,705		208,422	△ 208,422

(注) 課税取引がないため消費税及び地方消費税なし

(3) コミュニティ・プラント事業

(単位 千円)

区 分	収益的収支			資本的収支		
	収 入	支 出	収 支	収 入	支 出	過不足
予算額(A)	981,357	965,760	15,597	503,560	1,067,633	△ 564,073
決算額(B)	927,390	884,413	42,977	513,439	1,043,387	△ 529,948
	(913,836)	(849,356)	(64,480)	(513,439)	(1,043,216)	(△529,777)
(A)-(B)	53,967	81,347	△ 27,380	△ 9,879	24,246	△ 34,125

(注) 決算額(B)欄の()内は、消費税及び地方消費税を除く額

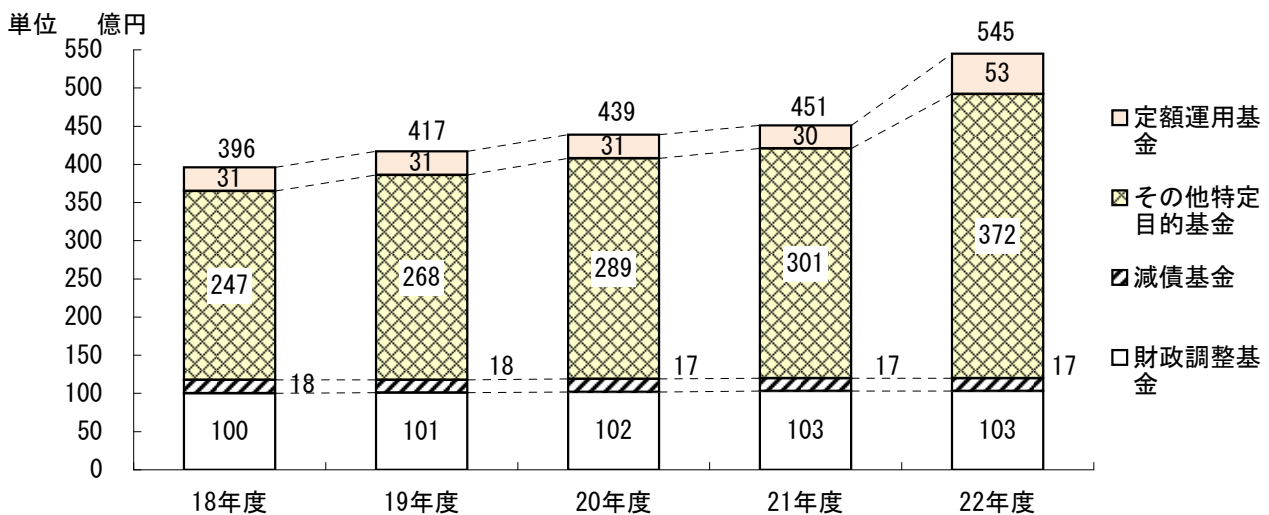
4 基金・地方債

(1) 基金現在高の推移(平成18年度～22年度)

基金の22年度末現在高は545億2,266万3千円で、21世紀都市創造基金や土地開発基金の追加積み立てなどにより、前年度と比べ94億6,794万8千円の増となりました。

(単位 千円)

区 分	18年度末	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	22-21増減額
財政調整基金	10,043,045	10,127,201	10,216,477	10,289,234	10,336,754	47,520
減債基金	1,769,820	1,666,363	1,680,621	1,690,435	1,699,906	9,471
その他特定目的基金	24,722,250	26,839,929	28,889,313	30,073,032	37,236,003	7,162,971
定額運用基金	3,104,862	3,110,214	3,115,618	3,002,014	5,250,000	2,247,986
合 計	39,639,977	41,743,707	43,902,029	45,054,715	54,522,663	9,467,948
市民一人あたり	74	78	82	84	102	



(参考) 主な基金の現在高の推移

(単位 千円)

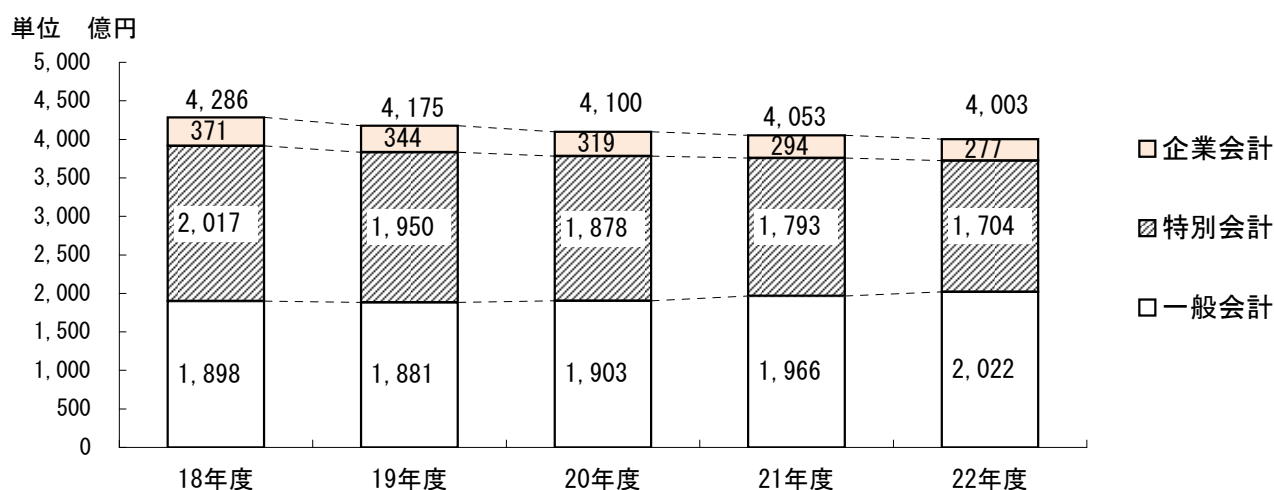
区分	基金名	18年度末	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	22-21増減額
その他特定目的	21世紀都市創造基金	9,742,549	10,323,446	10,413,738	10,479,064	15,529,943	5,050,879
	地域社会活性化基金	1,566,709	1,495,940	1,373,195	1,266,655	1,781,911	515,256
	地域振興基金		1,000,000	2,000,000	3,000,000	4,000,000	1,000,000
定額運用	土地開発基金	2,736,862	2,742,214	2,747,618	2,752,014	5,000,000	2,247,986

(2) 地方債現在高の推移(平成18年度～22年度)

全会計の地方債の22年度末現在高は4,003億284万5千円で、一般会計は臨時財政対策債の増などにより増加したものの、特別会計、企業会計の減により、前年度と比べ50億2,097万9千円の減となりました。

(単位 千円)

区 分	18年度末	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	22-21増減額
一般会計	189,841,894	188,091,077	190,309,722	196,575,099	202,220,041	5,644,942
特別会計	201,674,423	194,968,171	187,780,153	179,289,109	170,413,976	△ 8,875,133
企業会計	37,085,834	34,450,691	31,860,594	29,459,616	27,668,828	△ 1,790,788
合 計	428,602,151	417,509,939	409,950,469	405,323,824	400,302,845	△ 5,020,979
市民一人あたり	804	783	768	760	750	



(参考) 一般会計・地方債現在高の推移

(単位 千円)

区 分	18年度末	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	22-21増減額
通常債	135,062,272	132,050,053	133,817,398	137,957,268	136,102,161	△ 1,855,107
減税補てん債等	21,942,405	20,011,694	18,012,204	15,942,747	13,806,457	△ 2,136,290
臨時財政対策債	32,837,217	36,029,330	38,480,120	42,675,084	52,311,423	9,636,339

(参考) 主な特別会計・地方債現在高の推移

(単位 千円)

区 分	18年度末	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	22-21増減額
下水道事業	189,715,374	183,780,269	177,373,819	169,636,919	161,498,834	△ 8,138,085
集落排水事業	8,223,974	7,896,584	7,563,663	7,237,108	6,903,780	△ 333,328
駐車場事業	1,244,627	1,009,450	767,457	520,352	294,655	△ 225,697

5 財政健全化指標

【健全化判断比率】

(単位 %)

分析項目	22年度	21年度	20年度	早期健全化基準	財政再生基準	説明
実質赤字比率	— (△5.19)	— (△4.96)	— (△4.63)	11.25	20.00	<p>普通会計を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率</p> <p>(算式)</p> $\frac{\text{一般会計等の実質赤字額}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
連結実質赤字比率	— (△17.84)	— (△18.87)	— (△17.57)	16.25	35.00	<p>全会計を対象とした実質赤字(又は資金不足額)の標準財政規模に対する比率</p> <p>(算式)</p> $\frac{\text{連結実質赤字額}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
実質公債費比率 ()内は単年度の実質公債費比率	10.7 (11.0)	10.9 (10.0)	11.2 (11.1)	25.0	35.0	<p>全会計に一部事務組合等を加えた会計が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率</p> <p>(算式)</p> $\frac{(\text{地方債の元利償還金} + \text{準元利償還金}) - (\text{特定財源} + \text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}{\text{標準財政規模} - \text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額}} \times 100$ <p>の3年度間の平均値</p>
将来負担比率	84.1	103.7	102.5	350.0		<p>地方公社・第三セクター等を含む会計が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率</p> <p>(算式)</p> $\frac{\text{将来負担額} - (\text{充当可能基金額} + \text{特定財源見込額} + \text{地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額})}{\text{標準財政規模} - \text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額}} \times 100$

※総務省提出数値による

※実質赤字額及び連結実質赤字額がないため「-」となるが、算式の結果を「△」で表示

※標準財政規模は、臨時財政対策債発行可能額を加えた額

【資金不足比率】

(単位 %)

分析項目	22年度	21年度	20年度	経営健全化基準	財政再生基準	説明
資金不足比率	—	—	—	20.0		<p>公営企業ごとの資金の不足額の事業の規模に対する比率</p> <p>(算式)</p> <p>【法適用企業】</p> $\frac{\text{資金の不足額}((\text{流動負債} + \text{建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高} - \text{流動資産}) - \text{解消可能資金不足額})}{\text{事業の規模}(\text{営業収益の額} - \text{受託工事収益の額})} \times 100$
<p>【法適用企業】</p> <p>(水道事業会計)</p> <p>(交通事業会計)</p> <p>(都市開発整備事業会計)</p> <p>(コミュニティ・プラント事業会計)</p>	<p>(△38.7)</p> <p>(△39.6)</p> <p>(△63.9)</p> <p>(△319.6)</p>	<p>(△39.6)</p> <p>(△10.2)</p> <p>(△64.4)</p> <p>(△304.7)</p>	<p>(△39.3)</p> <p>(△32.4)</p> <p>(△61.7)</p> <p>(△289.8)</p>	20.0		
<p>【法非適用企業】</p> <p>(中央卸売市場事業特別会計)</p> <p>(下水道事業特別会計)</p> <p>(集落排水事業特別会計)</p> <p>(食肉センター事業特別会計)</p>	<p>(△34.8)</p> <p>(0)</p> <p>(0)</p> <p>(△13.4)</p>	<p>(△28.9)</p> <p>(0)</p> <p>(0)</p> <p>(△30.6)</p>	<p>(△29.9)</p> <p>(0)</p> <p>(0)</p> <p>(△7.4)</p>			<p>【法非適用企業】</p> $\frac{\text{資金の不足額}((\text{繰上充用額} + \text{支払繰延} \cdot \text{事業繰越} + \text{建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高}) - \text{解消可能資金不足額})}{\text{事業の規模}(\text{営業収益に相当する収入の額} - \text{受託工事収益に相当する収入の額})} \times 100$

※総務省提出数値による

※対象会計は資金不足がないためすべて「-」となるが、算式の結果を「△」で表示

6 普通会計財政分析表

(単位 %)

分析項目	22年度	21年度	20年度	算 式
財政力指数 ()内は単年度の財政力指数	0.853 (0.807)	0.889 (0.860)	0.897 (0.893)	$\frac{\text{単年度財政力指数}}{\left(\frac{\text{基準財政収入額}}{\text{基準財政需要額}} \right)}$ の3年度間の平均値
経常一般財源比率	106.0	100.0	100.7	$\frac{\text{経常一般財源総額}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
経常収支比率	81.8	85.3	84.5	$\frac{\text{経常経費充当一般財源}}{\text{経常一般財源総額}} \times 100$
実質収支比率	5.2	5.0	4.6	$\frac{\text{実質収支額}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
公債費比率	11.4	11.0	11.3	$\frac{\text{地方債元利償還充当一般財源} - \text{災害復旧費等に係る基準財政需要額算入公債費}}{\text{標準財政規模} - \text{災害復旧費等に係る基準財政需要額算入公債費}} \times 100$
起債制限比率 ()内は単年度の起債制限比率	9.1 (9.4)	9.0 (8.9)	9.2 (9.1)	$\frac{\text{地方債元利償還充当一般財源} - \text{災害復旧費等に係る基準財政需要額算入公債費} - \text{事業費補正に係る基準財政需要額算入公債費}}{\text{標準財政規模} - \text{災害復旧費等に係る基準財政需要額算入公債費} - \text{事業費補正に係る基準財政需要額算入公債費}} \times 100$ の3年度間の平均値

※総務省提出の地方財政状況調査による

※標準財政規模は、臨時財政対策債発行可能額を加えた額

※経常一般財源総額は、臨時財政対策債を加えた額